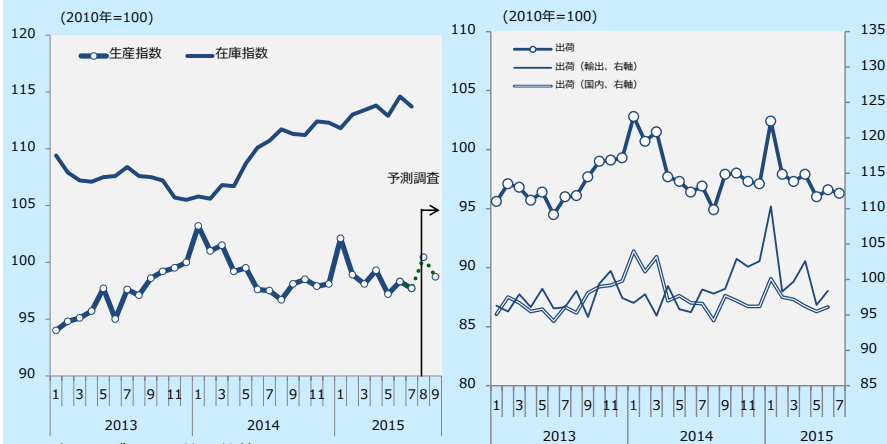


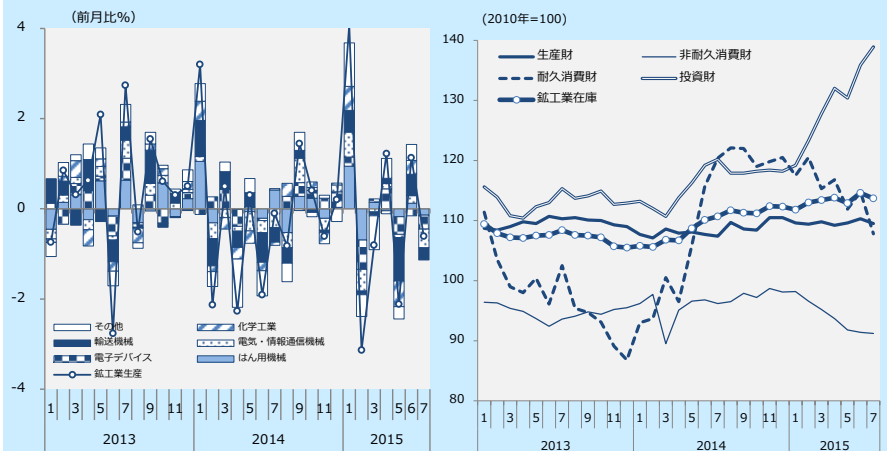
日本：鉱工業生産指数（2015年7月）

MRI Daily Economic Points
August 31, 2015

図表 生産・在庫指数／出荷指数



図表 生産の寄与度分解／財別在庫の推移



評価ポイント

2015年7月の結果

- 2015年7月の鉱工業生産指数（速報）は、季調済前月比▲0.6%と、前月+1.1%上昇した後、2ヵ月振りに低下。出荷指数も同▲0.3%と、前月+0.6%上昇した後、2ヵ月振りに低下した。
- 7月の生産の業種別内訳をみると、電子デバイス（同▲3.7%）、電気機械（同▲0.5%）、情報通信機械（同▲8.4%）、輸送用機械（同▲1.4%）、はん用機械（同▲1.1%）と主要業種で生産の低下が続いている。
- 生産低下の主因は輸出の減少にある。貿易統計によると、7月の輸出数量指数は季調済前月比▲1.0%となっており、引き続き輸出の減少が生産を下押ししている。
- 在庫指数は前月比▲0.8%と2ヶ月振りに低下した。改正オフロード法（※）適用前の在庫積み増しなどを背景に、投資財、はん用機械を中心に在庫水準は高い水準にあるが、消費財では、耐久消費財を中心に在庫水準は引き続き減少傾向にある。

（※）ブルドーザやコンバインなど特殊自動車の排ガスの規制を定めた法律。平成26年より窒素酸化物を9割削減する規制強化を行っており、定格出力に応じて平成26年10月、平成27年10月、平成28年10月から、新しい規制の適用時期に経過措置を設けている。

- 製造工業生産予測調査では、8月は前月比+2.8%、9月は同▲1.7%を予測しているが、過去の実現率を踏まえれば、生産は緩やかな回復にとどまる見通し。

基調判断と今後の流れ

- 生産は、消費や設備投資の回復、米国向け輸出の堅調を背景に持ち直しつつあったが、15年入り後はアジア経済の減速の影響などから、弱い動きが続いている。
- 先行きは、国内では消費財の在庫調整が進展、企業の設備投資姿勢も積極化しており、メインシナリオとしては、雇用・所得環境の改善による内需の回復持続などを背景に、緩やかな回復を見込む。ただし、アジア向け輸出低調の長期化など先行きのリスクは高まっている。